

## ひとり親世帯等の子育てに関するアンケート調査の概要について

### 1 調査の目的

本県では平成 27 年度に「秋田県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、各市町村とともに、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのない社会の実現に向けて対策を進めている。

本調査は、経済基盤が比較的脆弱とされるひとり親世帯等について、各世帯の収入や子どもの生活、子育てに関する事項を把握し、効果的な「子どもの貧困対策」の策定に資することを目的として実施した。

### 2 調査方法及び回答状況

- (1) 調査対象 ひとり親世帯等 11,697 世帯  
・ひとり親世帯 11,591 世帯  
(20 歳未満の子どもを養育している配偶者のない者の世帯及び父母でない者が子どもを養育している世帯)  
・ひとり親以外の生活保護受給世帯 106 世帯  
(18 歳以下の子どもを養育している生活保護受給世帯)
- (2) 調査地域 全県 25 市町村
- (3) 調査方法 往復郵送による無記名アンケート方式  
(各市町村が作成した対象世帯の宛名ラベルを県の封筒に貼付して郵送し、同封した返信用封筒により無記名で回答を受けた。ただし、ひとり親以外の生活保護受給世帯については、各福祉事務所から郵送又は手渡しによりアンケート用紙を配布した。)
- (4) 調査期間 平成 28 年 6 月から 8 月まで (集計対象は 10 月末日までの回答分)
- (5) 回答状況 対象世帯数 11,697 世帯  
回答世帯数 4,323 世帯 (回答率 37.0%)

※ 収入別集計対象世帯数は 3,817 世帯である (収入未記載等により、統計的処理が不能な回答を除外)。

※ 貧困線 (平成 24 年 : 等価可処分所得 122 万円) 未満の世帯を「貧困世帯」、貧困線以上の世帯を「非貧困世帯」とした。

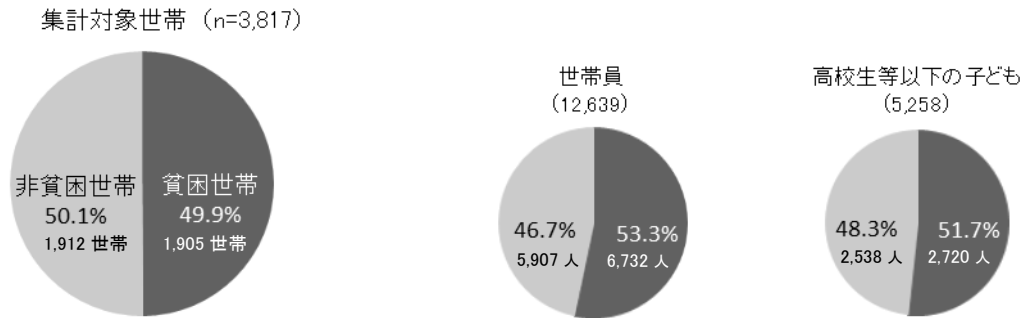
※ 等価可処分所得 : 世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で割って調整した所得。

### 3 調査結果の概要

#### (1) 世帯の収入について

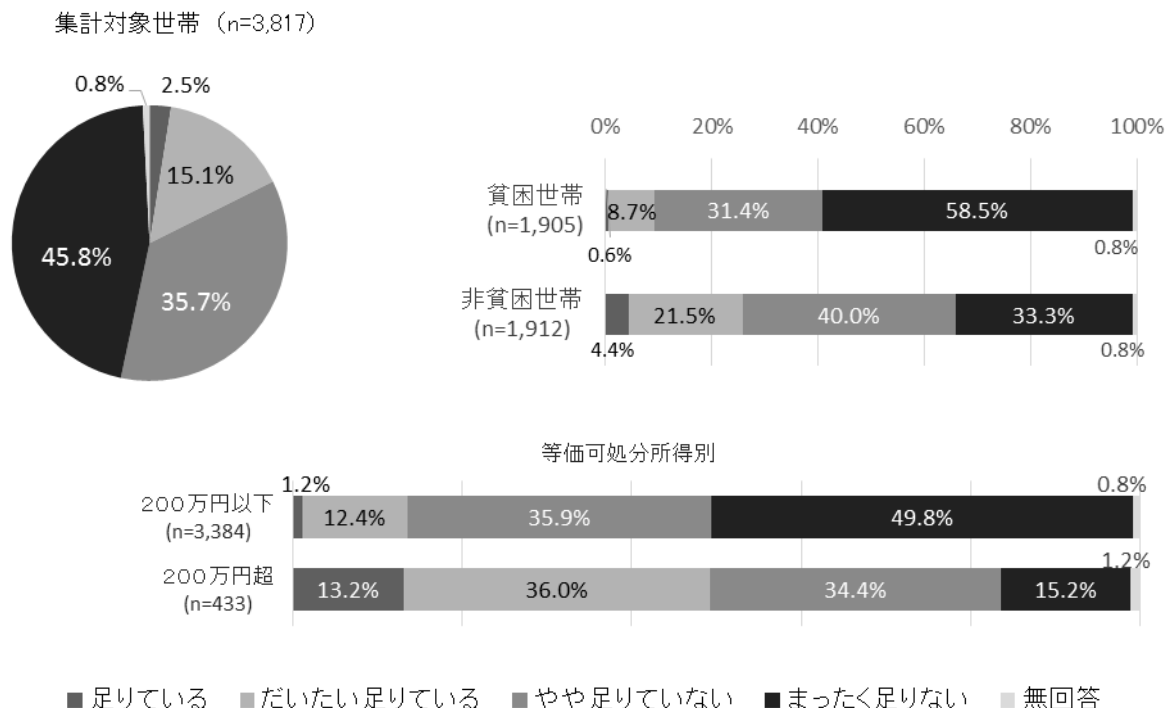
##### ① 貧困世帯の状況

貧困世帯は49.9%、非貧困世帯は50.1%であり、ほぼ半数が貧困世帯となっている。また、貧困世帯に属する者は6,732人で53.3%、非貧困世帯に属する者は5,907人で46.7%、高校生等以下の子どものうち、貧困世帯に属する子どもは2,720人で51.7%、非貧困世帯に属する子どもは2,538人で48.3%となっている。



##### ② 収入に対する実感

収入について「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯は17.6%、「やや足りていない、まったく足りていない」と答えた世帯は81.6%となっている。また、「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯は、貧困世帯では9.3%、非貧困世帯では25.9%となっている。等価可処分所得別にみると、200万円以下の場合「足りている、だいたい足りている」と答えた世帯が13.6%、「やや足りていない、まったく足りていない」と答えた世帯が85.6%であるが、200万円を超えるとそれぞれ49.2%、49.7%となっている。

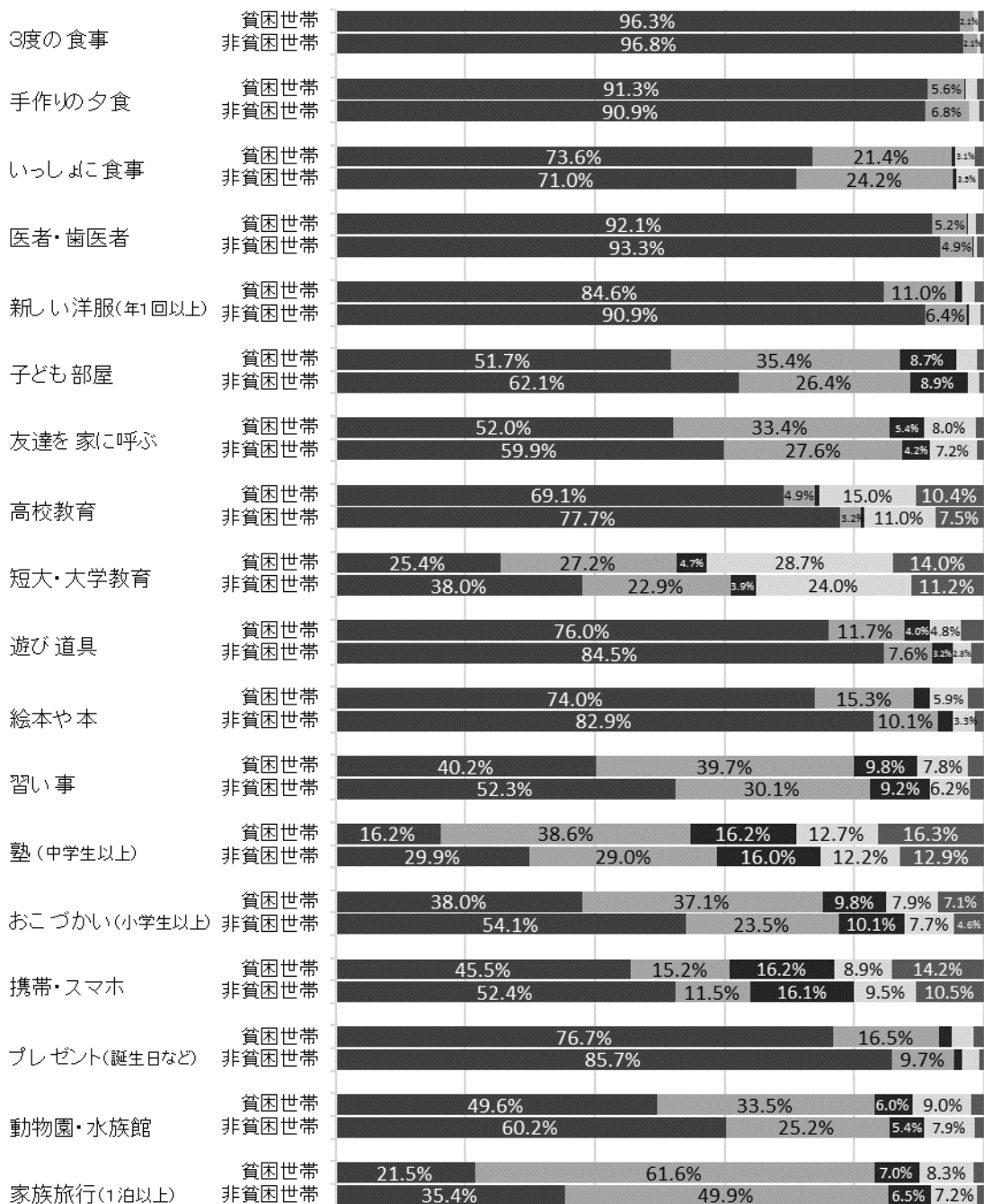


(2) 子どもの生活に関する事項について (貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912)

社会の中で期待される一定水準の生活に必要なとされるいくつかの項目について、下記の質問区分で調査した。

貧困世帯と非貧困世帯の「与えている」と回答した割合を比較すると、「おこづかい(小学生以上)」で16.1ポイント、「家族旅行(1泊以上)」で13.9ポイント、「塾(中学生以上)」で13.7ポイント、「短大・大学教育」で12.6ポイント、「習い事」で12.1ポイントとそれぞれ貧困世帯で低くなっている。一方、食や医療に関する項目では大きな差はない。

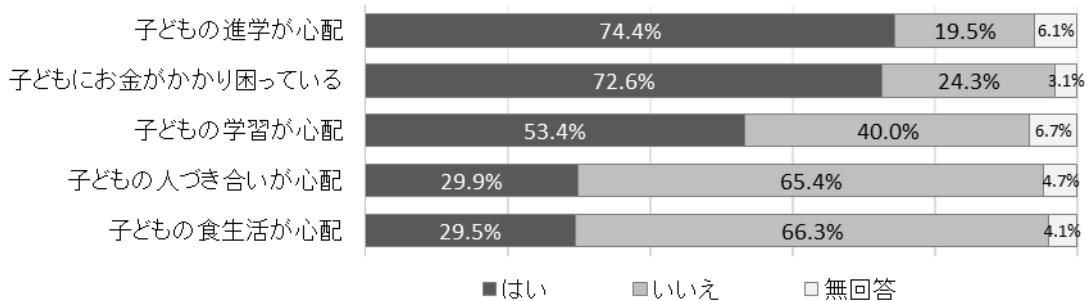
「与えている」 … 与えている(与えていた、与えるつもり)  
 「与えられていない」 … 与えたいが、家庭の事情(経済・時間的)で与えられていない  
 「与えていない」 … 必要だと思わないので、与えていない(与えていなかった、与えないつもり)  
 「どれとも言えない」 … どれとも言えない



■ 与えている ■ 与えられていない ■ 与えていない ■ どれとも言えない ■ 無回答

(3) 子育てに関する事項について (全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912)

全世帯のうち、子どもの進学を心配している世帯が74.4%、子どもにお金がかかり困っている世帯が72.6%、子どもの学習を心配している世帯が53.4%、子どもの人づき合いを心配している世帯が29.9%、子どもの食生活を心配している世帯が29.5%となっており(複数回答)、子どもの学習面での心配や子どもにお金がかかることに困っている世帯が多いことがわかる。

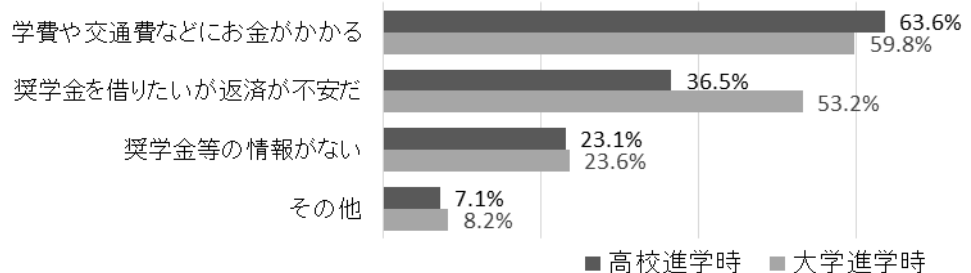
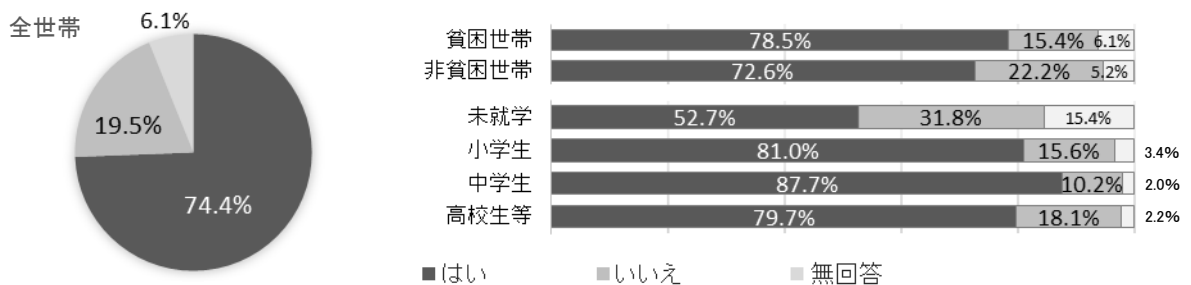


① 子どもの進学に関する心配ごと (子どもの進学が心配ですか?)

「はい」と答えた世帯は、全世帯の7割を超えており、貧困世帯では78.5%、非貧困世帯では72.6%となっている。

内訳は、「中学生がいる世帯」(87.7%)が最も多く、次いで「小学生がいる世帯」(81.0%)、「高校生等がいる世帯」(79.7%)、「未就学児がいる世帯」(52.7%)となっている。

心配なことの内容は、高校及び大学進学時ともに「学費や交通費などにお金がかかる」であり、次いで「奨学金を借りたいが返済が不安だ」、「奨学金等の情報がない」となっている。

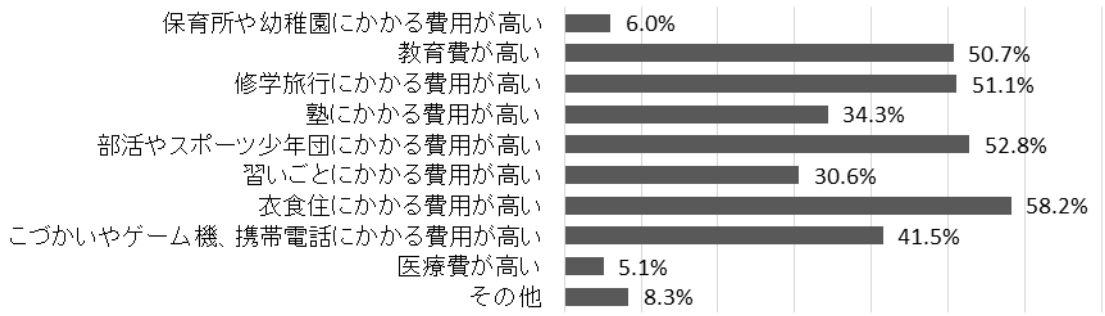
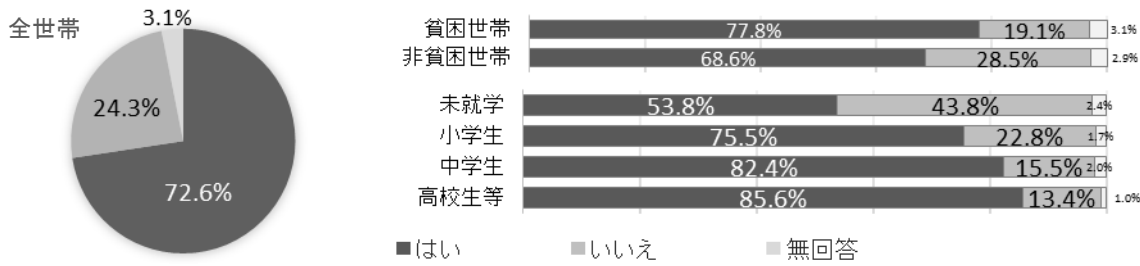


② 子どもに要する経費に関する困りごと（子どもにお金がかかり困っていますか？）

「はい」と答えた世帯は、全世帯の7割を超えており、貧困世帯では77.8%、非貧困世帯では68.6%となっている。

内訳は、「未就学児がいる世帯」(53.8%)が最も少なく、子どもの年齢が上がるにつれて上昇し、「高校生等がいる世帯」(85.6%)が最も多くなっている。

困りごとの内容（複数回答）は、「衣食住」(58.2%)が最も多く、次いで「部活やスポーツ少年団」(52.8%)、「修学旅行」(51.1%)や「教育費」(50.7%)の学校関係の経費、「こづかいやゲーム機、携帯電話」(41.5%)となっている。

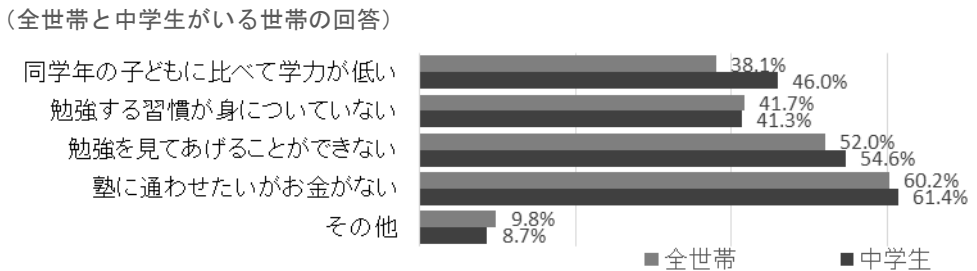
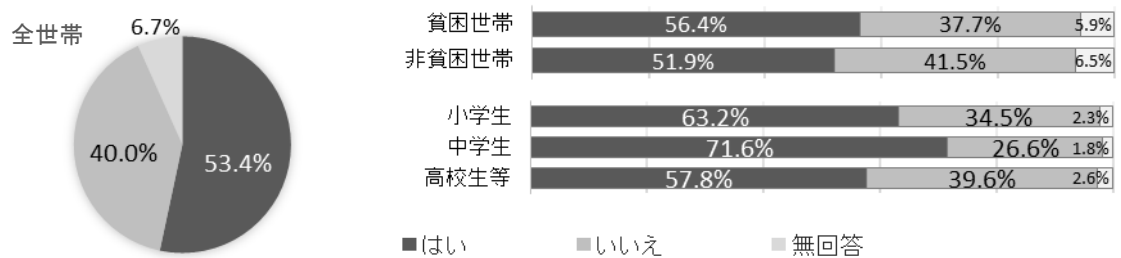


③ 子どもの学習に関する心配ごと（子どもの学習が心配ですか？）

「はい」と答えた世帯は、全世帯の5割を超えており、貧困世帯では56.4%、非貧困世帯では51.9%となっている。

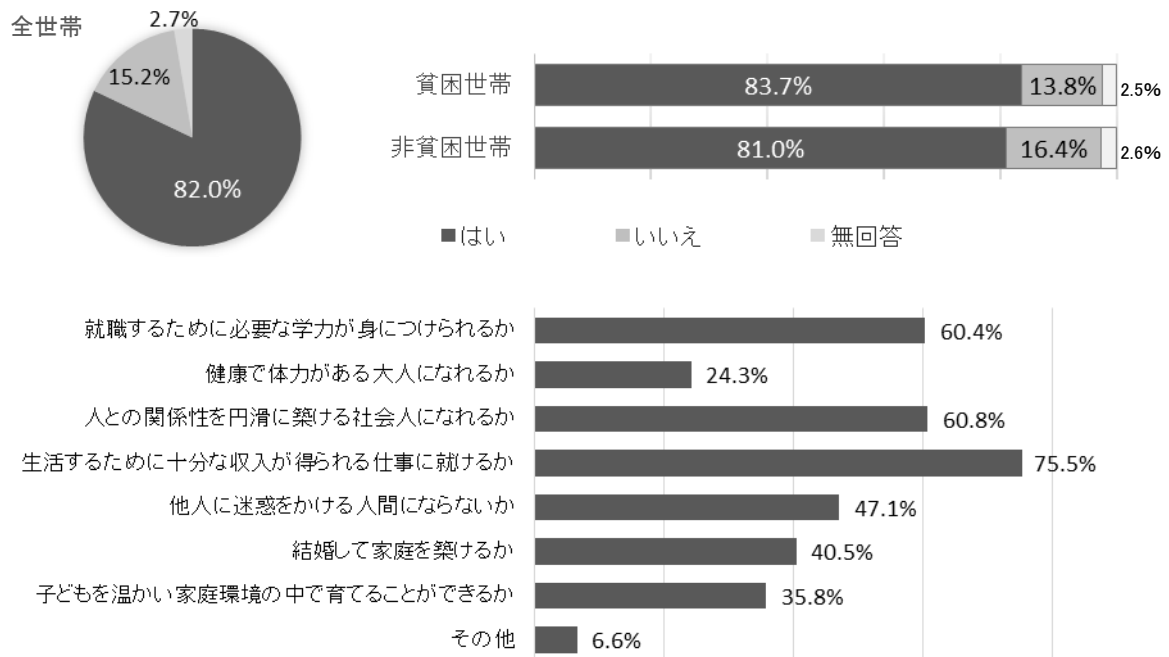
内訳は、「中学生がいる世帯」(71.6%)が最も多く、次いで「小学生がいる世帯」(63.2%)、「高校生等がいる世帯」(57.8%)となっている。

心配なことの内容（複数回答）は、中学生の場合、「塾に通わせたいがお金がない」(61.4%)が最も多く、次いで「勉強を見てあげることができない」(54.6%)、「同学年の子どもに比べて学力が低い」(46.0%)、「勉強する習慣が身につけていない」(41.3%)となっている。



(4) 子どもの将来に関する心配ごとについて (全世帯：n=4,323、貧困世帯：n=1,905、非貧困世帯：n=1,912)  
 (子どもが大人になるうえで、心配に思うことはありますか?)

「はい」と答えた世帯は、全世帯の8割を超えており、貧困世帯では83.7%、非貧困世帯では81.0%となっている。  
 心配なことの内容(複数回答)は、「生活するために十分な収入が得られる仕事に就けるか」(75.5%)、「人との関係性を円滑に築ける社会人になれるか」(60.8%)、「就職するために必要な学力が身につけられるか」(60.4%)が多くなっている。



#### 4 考察

- (1) 「子どもの生活に関する事項」では、塾や習い事、絵本・本などの学習に関する項目で与えているとする割合が、非貧困世帯より貧困世帯が小さくなっている。
- (2) 「子育てに関する心配ごと」で最も多いものは進学に関することであり、なかでも高校や大学等への進学に際しての経済的な負担に関する不安が大きくなっている。
- (3) 「子育てに要する経費に関する困りごと」では、学校生活に係る経費を除くと、衣食住やこづかい、ゲーム機・携帯電話といった経費に関するものが多くなっている。
- (4) 「子どもの学習に関する心配ごと」では、学習機会の確保に関するものが多いが、現実には(1)のとおり貧困世帯と非貧困世帯では、塾などに通える割合の格差が大きくなっている。

平成28年12月  
 秋田県健康福祉部福祉政策課  
 電話018-860-1314